



◎短歌募集

▲課題 隨意

▲〆切 毎月末日

▲發表 本誌上

▲賞品 三光に粗景を呈す

▲選評 眞宮起雲

▲投稿 用紙は隨意にて左記の處へ送らる可し

但添削及返稿を要せらるゝ方は往復はがき

又は切手封入にて送られたし

「伊勢國白子局内みどり短歌會」



俳句端書集

二十四

存外に乳母は老ひけり桃の宿  
 桃の宿 畫鶏にはたの音  
 春雨や猫も一日ふくる攻  
 摘草や小溝に拾ふ落し櫛  
 若草や手入の届く小庭先き  
 花散るやベンチに残る竹の皮  
 散る花や流るゝ川の静かなり  
 朧夜や窓に洩れ聞くパイオリン  
 花見舟下る隅田の夕景色  
 飴賣の笛吹く塲所や桃の花  
 朝貝にまさる小庭や梅の花  
 登りつめた心の廣し春の山  
 お出入の車夫も譽めけり白牡丹  
 春雨や隣の村は榛名講  
 門の田やたつた一と聲初蛙  
 陽炎や音して乾く壁の土  
 花咲くや今日も朝から酒の客  
 樂しげや遊び勞れて寝る胡蝶  
 水を汲む桶や折々花のかけ  
 尼一人千む垣や木蓮華  
 薄眠き日永の旅や畑廻り  
 摘草や輕き草履の草刈り  
 高ふ舞ふ雲雀に餌し磯の波

東京

東京

長野

埼玉

出雲

横濱

大阪

信州

常陸

辰子

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

齋

園

山

梅

杉

鳥

鳥

月

舟

綾

別れ霜不二もありく見ゆる朝  
人の氣も浮かるゝ日なり春の風  
筆持て居眠る人や日の永き  
どちらへも風に馴染みて糸柳  
野に山に目うつりのする春日かな  
彼岸會や佛壇からも野の匂ひ  
今日も又誘ひ出されて春日和  
乗り捨てし汀の舟や夏の雲  
雲見えて今日も雨なき暑さかな  
初雷や雲の切間を星一とつ  
夕立や鬼の様なる雲の出る

三光

天、芽柳や水に崩しれ川普請  
地、遠足や陽炎もゆる野のあたり  
人、その奥に赤き鳥居や葉の櫻

追加

風船を見失ひけり春の雲  
簾々婆々の成田詣や春の風  
初莖草をはなれて水の上下



無

大坂	高崎	相模	武州	下總	遠州	川越	東京	長野	一菴	奇零	無
きよ女	さだ子	梅の舎	全	全	全	野鳥	春	雲	舟	鳥	鳥

うんどう會

鶴 齡

老いたる冬は去りぬ、うら若き春は来りぬ、ゆたかなる日影あみ  
つ、萌え出るわか草のつみなき幼な兒なつかしみ一日某附屬幼稚  
園に訪れぬ、廣やかなる遊びの庭春風のどかに吹きわたたりて今盛  
りなる梅が香清し、小蝶形に結ばれたる五色のリボンの赤き袴つ  
けたる人の影おひつ、彼方此方飛びちがうもつつくしく、水兵の  
服つけたるはかなたの砂場に打ち群れて手に手に小さき木製の楯  
おつとり今し築城の練習。此方のベンチによりかゝれるは咲き匂  
ふ梅花を櫻に見立て、や見よ花見よとち喜ぶ、一ノ組の幼兒な  
るべし七ツ八ツ許りなるが繋り合ふ常盤木の下に集ふよと見るま  
に一人の女兒の拍子とるにまかせ歌ひ出だせる、

小さき我等によき事を教へ給ひし師の悪

ながく遠く忘るまじ大きくなりて後までも

時に彼方の入口に濃き紫の袴見えて廿をば二ツ三ツ超えたらんと  
思はるゝ人の出で來給ふや「アラ先生」と目さとき一兒の駈け出  
すや聞まほしと思はれし二の歌はさしをかれ、雛鷄の餌をまく少  
女に走るが如く衆兒我も我もと群り行きぬ保母の君なるべし兒等  
に取りまかれつ、

オ、皆さん元氣で、今日はい、お天氣ですれ先生の御恩の歌大  
そう丈夫になりましたねモー、いくつ眠ると小學校へ御出るやう  
になるでせう

「先生！モー二十許りねるとでせう？」